

2021 年度実施概要

学校名

気仙沼市立唐桑中学校

採択活動名

テーマ「まちを知り、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか？」

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 海に親しむ活動 ～志津川自然の家でのカッター漕艇・シーカヤック体験～	1	総合的な学習
2. 海による災害を知り、考える ～気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館訪問～	1	総合的な学習
3. 職業講話	2	総合的な学習
4. 海のまち「唐桑」を知り、未来を考え、未来のために行動する ～グループによる探究活動～	3	総合的な学習
5. 海から見た「唐桑」研修 ～視点を変えて「唐桑」のまちを考えよう～	3	総合的な学習

取り組みの概要

海とかかわりの深い自分たちの故郷について、その成り立ちや生活・歴史を学び、良いところを知るとともに、抱えている課題を調べ、整理し、故郷の未来に向けて、自分たちができる解決方法を考え実践する。

〔各学年の取り組みから〕

【1 学年】

「防災のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか。

○ 海から受ける恵みについて考える。

- ・志津川自然の家でのカッター漕艇・シーカヤック体験を通して、海に親しみ、海をより身近なものとして受け止めることができる。

○ 地域と防災について理解を深め、地域のために役立つことを考える。

- ・「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館訪問」を通して、震災時の様子を知るとともに災害への備えの必要性を実感する。

【2 学年】

「福祉のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか。

○ 地域の社会人との対話を通して、働くことの意義ややりがいについて考え、個々の将来につなげる。

- ・地元在住の海産物問屋経営者、保育士や理学療法士、デザイナー等の講話を通し、働くことややりがいについて感じ取る。

- ・地域に住む人々の暮らしや働き方について知り、まちを支えている人々の存在に気付く。

【3 学年】

「海のまち」として、どのようなまちを目指し、そのためにどうしていけばいいのか。

- 地域を散策したり地域の方々から聞いたりした講話をもとに、探究活動に取り組み、見えた課題を追究しながら自分たちに出来ることを考える。
 - ・豊富な海の資源の利用，海にかかわる人々の暮らしについて調べる。
 - ・自分たちの住む「海のまち」のよいところ，抱えている課題について明らかにする。
 - ・「海のまち」の未来のために，アイデアを出し合い，計画・実践する。
- 海から見た「唐桑」研修
 - ・普段は「陸から海」を見ているが，視点を変えて「海から陸」を見ることで，日常とは異なった見方で「唐桑」のまちや「海」について考える。
 - ・自分の目で直接「海」を見ることで，新たな気付きや疑問をもつことで，次の課題設定の一助とする。



海から見た「唐桑」研修

- ・大島汽船の方から，船舶の識別番号についての説明を聴く



フィールドワーク

- ・Coco唐さんで，制作に使用している布地についてインタビュー

〔成果〕

- ・生徒の興味や関心に基づいた課題を設定したことで，生徒が主体的に探究活動に取り組むことができた。
- ・地域支援コーディネーターの方々に，定期的に探究活動の過程を確認していただき，適切な助言をいただいたことで，生徒は見通しをもって活動することができた。
- ・ICT機器を活用して作成した動画を発表に活用するなど，複数の情報発信の方法からより効果的なものを選択することができた。
- ・地域の団体や商店での取材やオルレコースでのフィールドワークなどを生徒自身が計画し，実行したことで，体験から学ぶことができた。
- ・探究学習を通して，自分たちにできることを広めていこうという前向きな行動が見られた。

〔課題〕

- ・与えられた提案等に対して受け入れる気持ちが強く，批判的に物事を考えることが課題である。
- ・グループ毎に計画する体験活動やフィールドワークに対応するための人的，方法的な工夫をしていくことが課題である。